

(3) 動画による授業研究の取り組み

- 授業(動画)を視聴しグループで協議



授業作りの5つの視点

※資料II

- 単元指導計画の「授業評価」の項目を活用

<個別の評価>・・・(別紙に記入)。

●授業評価

<授業作りの5つの視点>

授業評価の視点	内容	評価	課題と改善策
物理的・環境支援・補助的・手段・人的支援	段階ごとに異なる場合は、その旨を文章で表記。	◎良い ○おおむね良い △指導改善を要する	段階ごとに異なる場合は、その旨を文章で表記。
学習機会	段階ごとではなく、全体としての評価。		
多様な評価			
次年度に けて	◎ 科目	よい ・ 変更が必要	時数

授業の前に記入

授業後に記入

変更が必要に○がついた場合は、その理由を課題と改善策に記入する。

- どのようなねらいをもって行ったか？
- どのような授業を行ったか？
- 学習評価（児童生徒ができるようになったことは何か？）
- 個別の有効な手立ては何か？（次の学習や他の学習への反映）
- 授業でどんな工夫や配慮をしたか？（次の学習や他の学習への反映）

国語、保健体育、理科グループは、北海道肢体不自由教育研究協議会での公開授業を実施

※資料Ⅱ 授業づくりの5つの視点

授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」（5つの視点）

真駒内スタンダード（暫定）令和3. 3. 16

◎授業全般

自立活動教諭からの視点

5つの視点	語句の定義	工夫・配慮 (項目)	工夫・配慮 (具体例)
物理的環境 支援	○できる状況づくり ・理解しやすく、学びやすい環境 ・注意を向けやすい環境 ・指導しやすい環境 ・安全面、衛生面を考慮した環境	・姿勢の安定	臥位、座位、立位、歩行等の補装具の使用、姿勢保持の工夫
		・上肢の設定	姿勢、机の高さ、コルセットの活用、U字クッション、スリングの活用等
		・刺激の調整	視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整（パーテーション、席の配置、明るさ等） 児童生徒が活動に集中できる環境作り
		・教室内の配置	安全面・衛生面の配慮、活動に合わせて学びやすい環境、MT・教材の配置 【動きのある学習活動】交流しやすい座席・通路等の配置、自分で動ける環境の整備
		・机上、教材の整理	机上の整理、場面に応じた教材の出し入れ、教材を操作しやすい学習環境
補助的手段	○個の力を十分に発揮するための手段 ・支援ツール ・ICT機器の活用	・自助具・補助具	スプーン、箸、筆記具等、児童生徒が操作できた実感を得られるような器具や補助具の工夫・調整
		・感覚支援機器	眼鏡、補聴器、イヤマフ等 【聴覚、視覚に障がいがある児童生徒への配慮】 聴覚：手話や指文字を整理、文字等視覚補完 視覚：聴覚(音声言語や音)や触覚での補完
		・コミュニケーションツール	タブレット、コミュニケーション機器、カード等 【実態に合わせた表現】自分の考えを伝える手段、イラスト・文字・単語の選択
		・児童生徒に合った教材	大きさ・形・素材への配慮、五感に訴える教材、児童生徒に合わせてルールや教材を簡略化 エラーレスな用意、個の力（見え方、操作性）を発揮しやすい ICT 機器
		・活動の見通し	【展開】単元構成・学習の流れの工夫 【意欲】目標物を置き視覚的に活動をわかりやすくする 【身体の動きの補完】基礎的技能を知識として習得する
		・視覚教材	【視覚教材】デジタル教材、パワーポイント資料、関係性（関連）を視覚的に伝える工夫 演示方法の工夫、動画での演示、実物や具体物を提示、写真の活用 色楽譜、音階体操、イメージしやすい形状・立体感を伝える ICT機器（アイパッド等）を用い自分の活動を見て、動きの修正・意思の表出 選択肢をわかる、背景をかえる、映像やイラストのわかりやすさ 航空写真、CCDカメラで下から撮る動画等の活用
		・実態把握	【適切な支援方法】既習事項、指導内容の理解、集中できる時間、発達段階、学習内容の得意不得意 集団の実態差 【必要最小限の支援】教師が手を貸しすぎず見守る場面 【表現を代弁する】児童生徒の学習中の良さを評価、表情や動きを見逃さない
・注目を促す	教材を出すタイミング、効果音、注目させてから話し始めたり選択させたりする、適切な情報量・教材の量 選択肢の数、絵カードの提示の位置（上下左右）		
人的支援	○ねらいに応じた適切な指導者数 ○ねらいに応じた適切なかわり ・言葉かけ ・支援のタイミング		



※資料Ⅱ 授業づくりの5つの視点

	<ul style="list-style-type: none"> ・支援量 ・MT、ST役割 ・TT共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話し方 	短く、わかりやすく、驚いたり感動を伝えたりする、興味を引きつける、STの活用
		<ul style="list-style-type: none"> ・適切な指導体制、人数 教師の役割 	<p>【集団作り】同じ基盤で話が進められるようなグルーピング</p> <p>【適切な指導体制】児童生徒に応じたねらいを達成するのに適切な指導体制・人数、STの人数を最低限にする</p> <p>【教師の役割】MTは全体が見える場所で指導する、MTとSTの役割の明確化、教師の雰囲気作り</p>
学習機会	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの機会が十分にある授業 (受け身でなく、十分な活動を設定する) ○人との協調ややりとりの機会が豊富にある授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・話、映像の視聴 	話や映像の選択（見通し、長さ、わかりやすさ）、生活に身近な内容 把握のさせ方（注目してほしい場面で止める、サイン・カード・動き）
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験的活動 	<p>【ゲーム的な活動】クイズ形式・パズル・ゲーム、教材を自分で操作する活動</p> <p>【生活に結びつく内容】実物の使用、動画+具体物などリアルな内容、生活場面に生きる内容</p> <p>【実体験】実際に目に見えて触れられる教材に関わる活動、道具を操作したり触れたりする場面 自発的な動きを引き出す活動</p> <p>【体験の前後の活動】</p> <p>前：実験の予想、児童生徒の興味や既習知を活用、考えをまとめる時間、友達同士で相談、自分の考えを発表する場面を設定、活動の準備を児童生徒が行う</p> <p>後：活動の振り返り、正誤の伝え方、継続的な学びで取り組みの成果を確認 片付けを児童生徒が行う、体験的学習から生活と教科を結びつける デジタル教材と経験したことを比較</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・友達の活動から学ぶ 	友達の活動を見て考える場面を大切にする
多様な評価	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価 ○他者評価 ○相互評価 <p>・多重の評価 (学校や家庭などにおいて賞賛される機会がいくつもあ る)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 	<p>【ねらい】ねらいを明確にして評価をする、目標物を決め自己評価をしやすくする</p> <p>【まとめる】ワークシートにまとめる、わかったことを発表する</p> <p>【成功体験】成功体験を多く積めるようにする、肯定的な気持ちを育てる</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の評価 	児童生徒が自分では言葉にしない表現についてフィードバックする、児童生徒が失敗した時の対応
		<ul style="list-style-type: none"> ・友達の評価 	友達同士が良さに気付けるような機会・発表、「自分なら」と当事者意識を持たせる 友達の活動を見て考える場面を作る、友達の作品の鑑賞の工夫
		<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 	互いの演奏を聴き合う場面を作り評価する、学習のねらいに対する評価をする

授業研の詳細は、各グループの欄を参照

5 内容～③自立活動グループ、その他、学校 課題に応じた研究

④「自活主」の児童生徒の指導
計画について作成や検討。

自立活動
グループ

⑤その他、学校課題に応じた研究

訪問教育
グループ

寄宿舍
グループ

小中、指導すべ
き内容グループ

高、指導すべ
き内容グループ

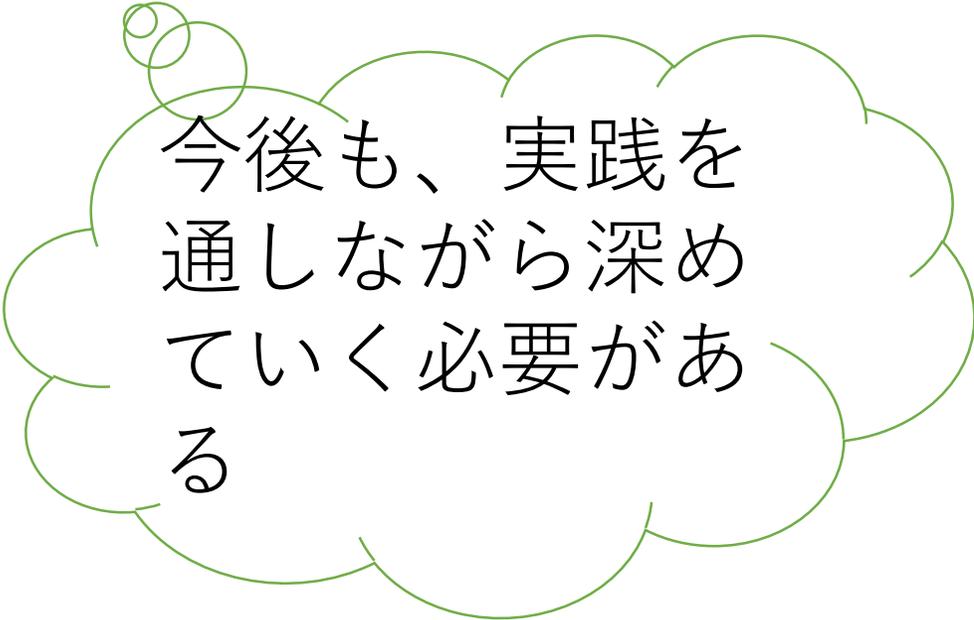
詳細は、各グループの欄
を参照

6 今年度の研究のまとめ（成果と課題）

観点別評価を踏まえた、目標や評価規準の立て方について一定の研修を行うとともに、作成が進んだ

授業実践に関して、校内授業研究および北肢研の公開授業を通しての授業改善に取り組んだ

自立活動を主とする教育課程の児童生徒の指導計画について整理した



今後も、実践を通してながら深めていく必要がある